

経済学専攻の留学生の日本語教育の試み
—小説を教材に取り入れる場合—

A NEW APPROACH TO JAPANESE EDUCATION FOR OVERSEA STUDENTS
READING ECONOMICS
-USE OF NOVELS AS TEXTBOOKS

ミョウチェン, 日本経済大学
Qian Miao, Japan University of Economics

1. はじめに

経済学を勉強している留学生のための日本語授業の実施目的は、一般的な日本語と専門日本語の両方の習得にあると思われる。そのため、授業内容は少なくとも、日本語に関する資格（日本語能力試験、BJT ビジネス日本語能力試験など）の取得への支援と経済分野の授業を受講する際、難しいとされる専門用語の習得、専門書の読解など専門日本語の学習が含まれているはずである。それでは、経済分野の専門日本語の教え方には、どんなものが求められているだろうか。従来、「経済用語」のボキャブラリーを利用し、意味解釈のうえで暗記してもらうという形式が多用されてきたが、経済用語はいつまでも語彙として扱われ、実際の経済専門科目の勉強、ないし経済分野で就職したあとの業務と繋がらない傾向がある。

筆者が専門教育の試みとして、2014年4月から2015年3月まで、日本経済大学・経済学部の「日本語V」のクラスにおいて、小説を主教材、テレビドラマのDVDを補助教材として導入し、授業を実施した。本稿では、この授業の実施状況と実施後のアンケート調査についての報告であり、専門日本語教育の視点から、この授業の専門科目の学習への貢献、問題点及び改善について考えるものである。

2. 先行研究

専門日本語教育に関しては、野田（2001）がある。社会科学系専門日本語教育について、大学院生のための日本語教育について専攻別でデータと調査結果による課題分析や展望を述べた。教科開設、教育環境を整えるうえで、たいへん貢献されている。

小宮（2001, 2014）では、留学生として学ぶ必要のある基本的経済専門用語について、その用語の選定や、勉学の指導法などを中心に論述している。

ただし、留学生で経済専攻の学部生のための日本語教育について、論究している研究はまだ見当たらない。

3. 授業実施状況

3.1 実施背景

まず、授業実施の背景として、筆者が所属する日本経済大学 神戸三宮キャンパスの留学生受け入れ状況を紹介する。同キャンパスは経済学部・商学科には、2014年度留学生が300名以上在籍しており、それぞれ流通ビジネス、国際貿易、

観光ビジネスの三つのコースに属している。これらの留学生は入学までは日本語学校、または、専門学校で2年間～5年間日本語の学習を終えている。出身地は中国、韓国、ベトナム、ネパールで、全員アジア出身である。

授業を実施したクラスは必修科目「日本語 V」の学生 14 名で、全員中国出身であり、日本語レベルは日本能力試験 N1 合格者 7 名と N2 合格者 7 名である。

3.2 実施概要

(1) 教材選定

教材として使用したのは小説『オレたちバブル入行組』（池井戸潤 2013）、そのほか、補助教材に TBS テレビが製作した連続ドラマ「半沢直樹」の DVD、参考書に、『「半沢直樹」で経済がわかる!』（池井戸、潤櫻沢健 2014）を使用した。

授業中、小説『オレたちバブル入行組』から選定した 13 のエピソードをプリントにして配布し、それを中心に演習を行う。エピソードの選出基準は以下になる。

- a 1 回の分量は 5、6 頁
- b ストーリーが進展するには重要なところ
- c 専門用語の出現頻度が高く、詳しい説明がついている
- d 会話文と描写文とのバランスがよく取れている場面
- e ある程度高度な言葉使い、表現が出る

13 個のエピソードは以下のようなになる。（タイトルは筆者がつけたものである）

- | | | |
|----------|----------|---------------------|
| エピソード 1 | P7～11 | 就活～内定までの経緯（一） |
| エピソード 2 | P12～17 | 就活～内定までの経緯（二） |
| エピソード 3 | P18～23 | 就活～内定までの経緯（三） |
| エピソード 4 | P24～29 | 西大阪スチーム融資案件の経緯 |
| エピソード 5 | P30～41 | 融資先の与信資格をチェックする |
| エピソード 6 | P42～47 | 融資稟議書の作成について |
| エピソード 7 | P48～53 | 融資先に疑問のある場合、要チェック書類 |
| エピソード 8 | P59～63 | 融資先に問題が発覚した場合の対応 |
| エピソード 9 | P90～95 | 融資先の書類を確認するときの注意点 |
| エピソード 10 | P104～109 | 本社ヒヤリングの様子 |
| エピソード 11 | P147～153 | 裁量臨店の流れ |
| エピソード 12 | P180～189 | 銀行融資の原則 |
| エピソード 13 | P267～273 | 問題の融資先の動向を把握する |

(2) 授業の流れ

大きな作業は全体の把握、問題用紙の解答、教師によるまとめとコメント、DVD での確認の四つに分かれる。次はそれぞれの作業について紹介する。

① 全体の把握

第一段階では、朗読と黙読で全体的な内容を把握し、理解してもらう。内容の一部を読み上げてもらい、必要なところに教員が発音の訂正、表現の説明、状況の解釈など説明を入れる。それ以外の内容は学生に読むスピードを意識して、黙読してもらう。いずれも読みながら、新出単語・表現、経済用語、N1～N2レベルの文型に印をつけて、のちに調べてもらうようにする。

② 問題用紙の解答

解答用紙には、次のように、四つの項目が設けられている。下ではそれぞれの項目について説明する。

図1 解答用紙（例）

オレたちバブル入行組	26年度日本語V
P18～23	◎ 気になる文型
◎ 気になる言葉	1 …ぶり _____
さながら 操る 内定 内示 メンツ ライバル	2 () _____
こける 要領がいい 顔が広い _____	3 () _____

◎ 経済関連用語（調べてこい!）	◎ 理解とまとめ
「バブル」、「リクルート事件」、「融資」、「粉飾」、「信用貸し」	1 半沢が内定をもらった時に会った同僚のそれぞれの身分と特徴をまとめろ!
	2 第1章の始めに出てきた人物の身分と特徴をまとめろ!

◎ 気になる単語

学生が自分にとって分からない、或いは、意味があいまいで、その使い方に慣れていないような単語、または慣用表現を本文から選択し、その意味を調べる。13のエピソードを通じて、最低限 150 個の単語や表現をマスターするのを目標としている。以下は基本単語・表現 65 個の一覧表である。

表1 基本単語・表現一覧表

1 協定破り	2 高ぶり	3 アポ	4 由もない	5 お澄まし顔
6 訴える	7 ありきたり	8 案の定	9 目配せ	10 ネイティブ
11 内定	12 メンツ	13 ライバル	14 要領がいい	15 顔が広い
16 功名	17 すっぽかし	18 手柄	19 居留守	20 のらりくらり
21 唾然	22 腑に落ちない	23 募る	24 強張る	25 信用格
26 鬱陶しい	27 納税	28 三期分	29 露骨	30 深刻
31 責任転嫁	32 新鋭	33 集計	34 小刻み	35 検討
36 貸し倒れ	37 耳をそろえて	38 煩雑	39 仰仰しい	40 総すかんで食う
41 類	42 悶々とする	43 玉に瑕	44 下請け	45 陥る
46 思うつぼ	47 裏を読む	48 キャリア	49 看破する	50 かるうじて
51 標的	52 からくり	53 率いる	54 遮る	55 口を噤む
56 期待薄	57 虎視眈眈	58 裕福	59 逡巡	60 崩壊
61 余地	62 顔をしかめる	63 失速	64 窮する	65 コンサルタント

◎ 気になる文型

本文から N1～N2 レベルの文法を探し出し、原文を写して、使い方を確認する作業である。日本語能力試験の文法問題に対応できる文型練習は、別の時間を利用して毎週やっているが、試験対策用の勉強では、学生が選択形式でしか文型に触れることがないので、実際の使用環境や使いからについて、小説の勉強を通してもっと理解することができ、もっと実用につながるのではないかと思われる。なお、13 のエピソードを通じて、最低限 40 個の文型をマスターすることを旨とする。

次のページの表 2 は重要文型一覧表である。

◎ 経済用語

小説に出てきた経済分野の専門用語を探し出し、辞書・専門書・インターネットの HP などを利用して、意味を調べて、関連知識を把握する。13 のエピソードを通じて、40 個の経済用語をマスターすることを旨とする。

次のページの表 3 は重要経済用語の一覧表です。

◎ 質問とまとめ

エピソード全体を通読したうえで、質問に答えてもらう。質問は以下の 4 パターンで作問している。

A ストーリーの展開についての説明

質問例 ヒヤリングの出席者と発言の内容をまとめなさい。

B 経済用語について、小説から分かる知識のまとめ

質問例 企業が銀行から融資してもらう理由を述べなさい。

C 小説の背景として出てきた、日本経済の歴史、重大事件などの解説

質問例 バブル時代から現在までの日本の銀行の変遷をまとめなさい。

D 登場人物の言動や心理活動についての分析

質問例 支店長はいま、どんな窮境に立っているか答えなさい。

表2 重要文型一覧表

1	...つつも	2	...を皮切りに
3	...ともせずに	4	...かねる
5	...ぶり	6	...う（よう）としている
7	...からといって	8	...とあって
9	...とばかり	10	...たところで
11	...るでもなく...ぬでもない	12	...るあまり
13	...るまでもない	14	...どころではない
15	とはいえ	16	...に違いない
17	...といったところだ	18	...ないかぎり
19	まさに	20	...がましい
21	...にしてみれば	22	...に尽きる
23	...ようが	24	...んばかり
25	それどころか	26	...とも...ともつかぬ

表3 重要経済用語一覧表

1	売り手市場	2	買い手市場
3	メーンバンク	4	都市銀行
5	融資	6	粉飾
7	稟議	8	担保
9	決算書	10	信用格付け
11	赤字	12	試算表
13	回収	14	金利
15	相殺	16	倒産
17	手形	18	証券会社
19	不渡り	20	根回し
21	裁量臨店	22	サンプリング検査
23	中堅企業	24	連帯保証
25	建設ラッシュ	26	国税

③ 教師によるまとめ、コメント。

教師は解答用紙を回収して、添削をしてから、次の授業に学生に返し、まとめとコメントをする。文法文型については、適切に選択された文型と例文を発表し、経済用語については、選択されたものを紹介して、「参考書」の解説をもとに説明する。質問とまとめの項目では、みんなの解答をまとめて、最も全面的な答えを発表し、ユニークの答えも紹介する。毎回最もまとまった、またはユニークな答えができた学生の解答用紙を掲示し、モデルとして全員に閲覧させる。

④ DVD で習った部分の確認をする。

エピソード2つ終わった段階で、ドラマ1話分を見て、内容を確認する。場合によっては、先にDVDを視聴してから、小説で内容を確認する。会話の場面は視聴後、ロールプレー形式で役に扮して発表する。

以上四つの段階で、小説のエピソードを勉強していくので、学生の語彙量、文法運用、経済基本知識、読解力の四つの分野でのレベルアップが期待される。

4. アンケート調査

4.1 調査結果と考察

実施期間の最終段階（2015年1月）に受講した学生を対象に、アンケート調査を行った。アンケートの質問は「この授業で最も役に立った、印象に残ったことは何ですか。三つ挙げてください」であり、40の有効回答を回収することができた。

答えは次のようになる。

「銀行業務について勉強できた」（12回答）

「主人公のピンチの時の対応法がためになる」（10回答）

「主人公の座右銘」（6回答）

「経済の専門用語が勉強できた」（4回答）

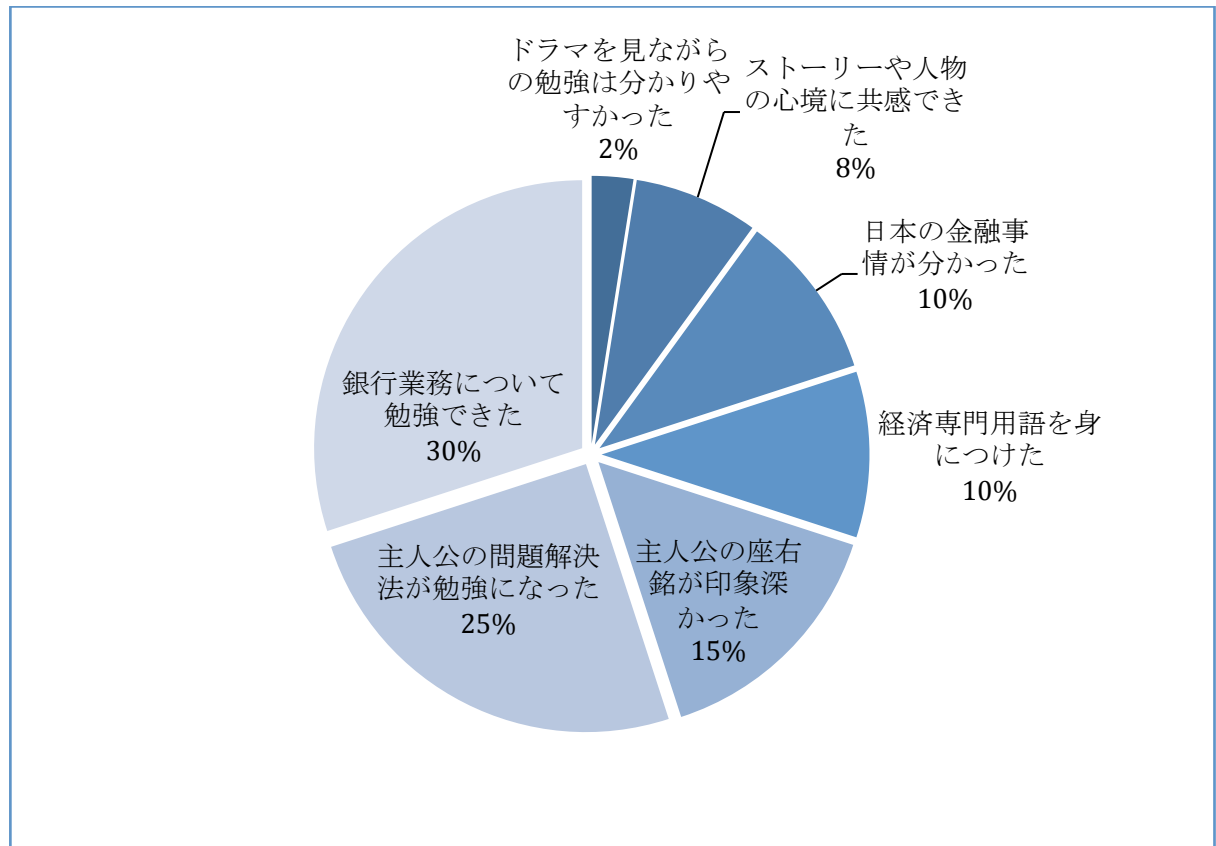
「日本の経済事情について勉強になった」（4回答）

「ストーリーや登場人物の心境に共感できた」（3回答）

「ドラマを見ながらの勉強は分かりやすかった」（1回答）

これらの回答のうち、「銀行業務について勉強できた」、「主人公のピンチの時の対応法がためになる」、「主人公の座右銘」と答えたのは、回答数の30%、25%、15%を占めており、学生にとって役に立った、印象に残ったものと見られる。「経済の専門用語が勉強できた」、「日本の経済事情について勉強になった」と答えたのは、それぞれ回答数の10%であり、一部の学生には役に立ったと思われていることが分かる。その他、「ストーリーや登場人物の心境に共感できた」は8%、特に「ドラマを見ての勉強」については2%しかなかったため、印象に残ったとは言えない。

図2 アンケート調査結果



この調査結果を考察してみると、今回の小説を取り入れた授業は以下の点で貢献できると言えよう。

- a 経済専攻の学部生は卒業後の進路を日本で就職すると考えているのが、大半占めている。この授業を通して、日本の職場事情、人間関係などを垣間見ることができた。
- b ストーリーの展開を通して、銀行業務という専門分野の知識を分かりやすく勉強できた。
- c 数多くの経済分野の専門用語が小説に登場するので、学生が興味を持って、調べたり、覚えたりすることができた。

4.2 問題点及び改善策

(1) 日本語の習得について

本来、学習ターゲットとしていた「日本語の習得」（言葉・表現、文法）については、言及した回答がなく、印象が薄いように見受けられる。単語・表現を150個と文型40個を勉強しているにもかかわらず、経済用語より記憶に深く残っているのが少ないようだ。

今後の改善策として、日本語の学習ターゲットの明確的な提示をすることが必要になってくる。例えば、単語・表現や文法の項目で、事前単語、慣用表現を5つ、文型を2つ指定し、必ず読み方、意味を調べて、解答用紙に記入して、覚えてもらう。そして、勉強した単語・表現と文型は小テストや定期テストの問題範囲とし、学生のモチベーションを高め、学習効果の評価を強化するのも有効ではないかと考える。

(2) DVD 視聴について

DVD ではドラマ視聴は小説の内容の確認、日本語の聴解力の向上と二つの目的で実施した。しかし、相応する課題は提供していなかったため、学生は目的がはっきりしないまま視聴することになっていた。学生は視聴時、ストーリーの展開に興味津津であるように見えたが、勉強内容の再度喚起という効果が少なく、たんに、ドラマ鑑賞にとどまった。

改善策として、DVD 視聴用の練習を作成することにした。一話の視聴が終わったあと、その中から、内容が充実しており、慣用表現、経済用語などわりと集中している部分を抽出し、再度視聴する。その部分のセリフを穴埋め問題にして、DVD を見ながら、聞き取れたものを問題用紙に記入してもらう。この練習によって、学生の聴解力と理解力の向上を狙う。

(3) 学習効果の評価について

学習効果の評価システムは完備されていない今回の授業実施中、問題用紙の解答について、赤ペン添削と授業中の口頭によるコメントをするだけで、学生は習得度やレベルアップのバロメーターがなく、把握しにくい。そして、授業に対する学生の満足度はアンケートでは、十分把握できていなかった。

今後の改善策として、コメントは口頭だけではなく、板書やプリント形式を利用し、文章化することによって、学生に頑張って課題を完成させることで手答えを感じさせる。そして、添削のとき、適切なコメントを入れて、学生に解答の良いところと足りないところを明晰に指摘する。学生に今後の改善事項を分かってもらい、次の段階でもっと完成度の高いものを作成しようとするモチベーションを持たせる。また、勉強内容を定期テストの問題に取り入れることによって、受講中の自己点検の頻度を上げ、授業の効果がアップさせることを目指す。

5. 展望

経済を専攻にする留学生のために、どんな日本語教育が必要なのか、小説を取り入れた授業は次の効果が期待できるように考える。

- a 小説のストーリーの展開を通して、専門分野の知識、専門用語を実用レベルで触れることによって、教科書籍の解説より、無理なく身につけること。
- b 小説の登場人物が置かれている背景、勤務状況などを通して、留学生は日本の経済発展の流れ、職場の人間関係などについて、ある程度馴染んでくること。
- c 小説で用いられるより高度で美しい表現に触れることによって、日本語力が向上すること。

今後は小説『オレたちバブル入行組』を取り入れて、教科書を編纂する予定であるが、その際に抽出内容の新たな選定、各種練習の作成、また、小説の著作権に関する交渉など、さまざまな面での作業が必要である。

また、金融分野以外にも、各経済分野の小説を取り入れた教科書が作成できれば、専門日本語教育において、新しい教育法につながっていけるのではないかと思われる。

参考文献

- 野田岳人 (2001) 「社会科学系専門日本語教育の課題と展望－神戸大学留学生センターの試み－」『神戸大学留学生センター紀要 (7)』81-101 神戸大学
- 小宮千鶴子 (2001) 「経済の初期専門教育における専門連語」『専門日本語教育研究』第3号 21-28 専門日本語教育学会
- 小宮千鶴子 (2014) 「留学生のための経済の基礎的専門語」『早稲田日本語研究23』1-12 早稲田大学日本語学会
- 池井戸潤 (2013) 『オレたちバブル入行組』文藝春秋
- 池井戸潤 櫻沢健 (2014) 『「半沢直樹」で経済がわかる!』文藝春秋